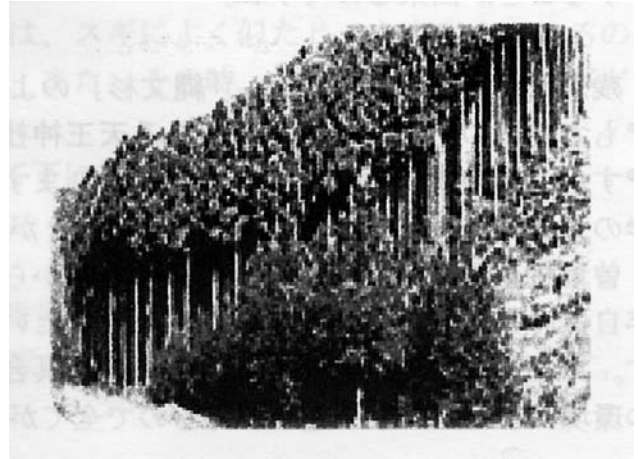


## 曾爾村で一番目につく樹木



みなさん、国立曾爾少年自然の家のある曾爾村。山には、多くの木が茂っていますね。さて、どんな木が多いと思いますか。落葉樹や常緑樹の広葉樹もありますが、一番目にすることが多いのは、みなさんも良く知っている針葉樹のスギという樹木です。

では、スギとは、どんな樹木なのでしょう。少しスギについて調べてみましょう

杉(スギ)の学名は、*Cryptomeria japonica*(クリプトメリア ジャポニカ)英語では、Japan cedar(ジャパン シダー)といいます。気がつかれた人もいるでしょうね。日本をあらわすジャポニカやジャパンという言葉が入っていますね。スギは、日本特産種の樹木です。特産種というのは、特にその地方で産出されることが多い種類ということになります。日本の本州、四国、九州に多く分布しています。

スギを辞書で引くと、スギ科・スギ属の常緑針葉樹の高木と記されているものがあります。

常緑の高木とは、一年中葉の色が緑色で紅葉しない背の高くなる木のことで。

針葉樹というのは、普通、字のとおり 葉が針のような形をしており、マツボックリのような丸みをおびた形の実(球果)がなる木のことをいいます。

(針葉樹の仲間には、マツ科の樹木やヒノキ科の樹木があります。また、マキ科の樹木、イヌガヤ科の樹木、イチイ科の樹木なども仲間に入ります。)

スギの木の高さは、普通 30m~ 40mになるそうですが、巨大なものは、60m以上になるものもあるそうです。25mプールの2倍以上の高さになりますね。

樹齢(木の年齢)は、3000年以上にもなるものもあります。

(鹿児島県の屋久島には、何と樹齢 7200年といわれているものもあるそうです。さらにそのスギには「縄文杉」という名前までつけられています。)

環境がスギの成長に適していて、伐採される(切られる)ことが無ければすごく長生きすることが出来るのですね。

残念なことに曽爾村には、「縄文杉」のような長生きのスギは、ないようです。それでも太良路のバス停留所近くにある天王神社のご神木「天王杉」は、高さが約30m程ですが、幹の周りは、なんと6mもあります。はっきりした樹齡は、分かりませんが、幹の太さからかなりの高齡だと考えることが出来ますね。

曽爾村全体としては、だいたい40年から50年のものが多いようです。国立曽爾少年自然の家のカンパ場のスギで、だいたい樹齡34~35年、高さは、20mほどです。ただし、スギの高さや太さ等の育ち具合は、樹木個々に違いがあります。育つ場所の環境によってかなり違いがあるので全てが20mということではありません。

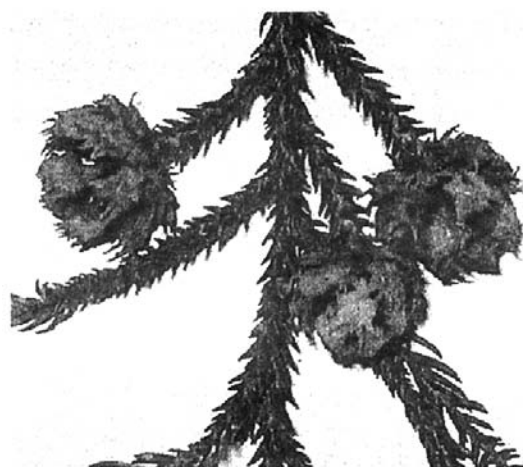
ところで、みなさん、スギも花を咲かせるのを知っていますか。花は、3月から4月にかけてお花とめ花が咲きますが、め花は、緑色で丸い形をしています。長さは、5mmほどしかなく枝先に1つずつしかつかないの目立ちません。お花の方は、薄い黄緑色で楕円形をしています。長さは、5mmから7mmほどですが、枝先にかたまって咲くのでよく分かります。

花が咲くんだからちゃんと実もなります。球果(実)は、15mmから25mmほどあり丸い形(つるつるでは、ありません)をしています。4月頃にお花は、花粉袋からたくさん花粉をとばします。(この花粉が、花粉症の原因の1つと呼ばれているスギ花粉です。)その花粉が、め花のはいしゅ(成長すると種子になる部分)に着くと球果は成長し、翌年の10月頃には、熟して色も緑色から茶色に変わり、同じ裸子植物のマツと同じようにはぜて種子(種)を散らします。

4月頃や10月頃、一度じっくり見て下さい。きっと花を見つれたり、実を見つれたりできると思います。



スギの雄花



松ぼっくりと同じようにはぜて  
種子(種)をちらしたあとの球果

曾爾村で目にすることが多い樹木はスギと書きましたが、目の前にある木が本当にスギかどうか分からないことには、それが正しいかどうか判断できませんね。

実際に国立曾爾少年自然の家の周りの林には、スギによく似たヒノキも生えているので、しっかり観察してみないとわかりません。また、その時、スギとヒノキ、どこがどのように違うのかわからないと判別できません。

そこで、スギとヒノキとの見分け方について下に書きます。

#### 葉で見分ける場合

スギの葉は、先がとがり 鎌状に曲がり小枝ラセン状についています。

ヒノキの葉は、緑色で小さなうろこ様な形で、小枝や細枝に交互についています。下面は、ロウの粉があって白く見えます。

#### 幹で見分ける場合

スギは、木の皮は成長していくと縦に長くさげ、細長くはげる。赤褐色又は暗赤褐色、に見えます。

ヒノキは灰紫褐色又は赤褐色、縦にさげうすく短冊状にはげます。

#### 枯れ枝で見分ける場合

スギは、木の上部の枝や葉が茂っているところがこんでくると下の方の枝は枯れて、幹近くで折れて落ちます。

ヒノキも、木の上部の枝や葉が茂っているところがこんでくると下の方の枝は枯れますが長く枯れ枝のまま残ってついています。

\* 参考 曾爾のこどものシリーズ15」の6ページより

この中で葉の形で見分けるのが、一番わかりやすいと思います。

枝先の図をのせておきます。参考にして見分けて下さい。

杉 (スギ)



先がとがり小さなかまの刃のような形に見える

榧 (ヒノキ)



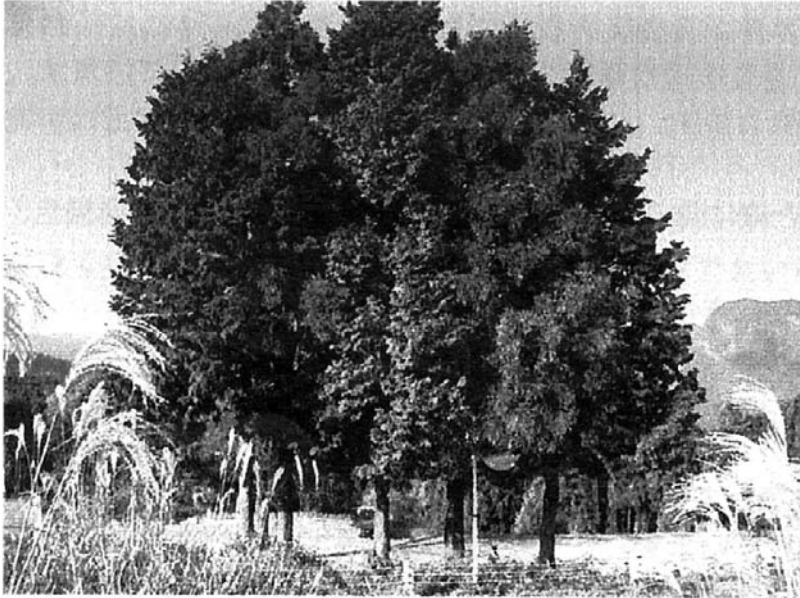
小さなうろこ状のものが  
積み重なっているように見える

スギの特徴がわかってきたところで問題です。

国立曽爾少年自然の家から、南西の方角に一般の駐車場がありますが、そこへの道沿いに木が5本並んで立っています。

この5本の木は、スギとヒノキが並んで立っているのですが、さて、スギは何本でしょうか。

ハイキングの途中で見つけたら調べてみて下さい。その時には、ヒノキの特徴もしっかり見てきて下さいね。



観察するときには、葉や木の皮、枝等をしっかり見てみましょう。また、手で葉や木の皮をさわって感触を確かめたり、葉の匂いをかいでみてください。よく似た匂いですが、少し違いがあります。

実際にいろいろ観察するときとスギの特徴が、これを読んでいるだけより先よくつかめると思います。

曽爾村の樹木で目立って多いのはスギですが、ある曽爾村の人からこんな話を聞きました。昔から曽爾村の山に、スギが多くあったわけではないんだよ。戦後（第2次世界大戦）  
「どんどんスギを植林したんだよ」

どうして、スギを植林したのでしょうか。

それは、木材になるスギ等の植林が日本政府によって奨励されたからだそうです。昭和20年以降、戦争に負けた日本を復興させる一つの手段として、建築用木材としてのスギ等の植林が押し進められました。補助金も出たので、山間地の農家では、収入を増やすために植林をし林業を始めるところが増えたそうです。それで、もともとあったナラやクヌギ等の雑木林がスギ林に変わっていったのです。これは、曽爾村に限ったことではなく、日本全国で押し進められたそうです。では、木材として利用するために植林されたスギは、今、どのように利用されているのでしょうか。曽爾のスギのことを調べていくうちに、曽爾の林業についても、また疑問がわいてきました。

曽爾の林業については、また調べて、別のことのシリーズで紹介したいと思います。

みなさんも疑問に思ったことをどんどん調べてみて下さい。いろいろ分かっておもしろいですよ。

発行年月 平成 13年 3月

執筆者 森 康 英

参考文献 日本の樹木 (山と溪谷社)

植物の図鑑 (小学館)

野外ハンドブック・7 樹木 2(山と溪谷社)